



大会情報ツアー体験記 AI 編

—目の前にキーワードが飛んでくる感覚—

北山涼華 | 京都工芸繊維大学情報工学課程

情報ツアーを選んだ理由

情報ツアーとは

2023年3月2日から3日間開催された第85回全国大会のプログラムの1つで、有識者が事前に選んだ複数のセッションをツアー参加者とともに聴講し、その後1時間程度解説やディスカッションをするというものです。

全国大会参加の経緯

私は京都工芸繊維大学情報工学課程2回生です。普段は部活動でアメリカンフットボールのアナライジングをしています。大学入学前に比べ、専門教科をある程度履修したことで、自分が興味を持つ分野がより明確になってきました。そのため、それらの分野の情報を収集し将来の専門分野を選定するために大学の教授の勧めで春休みに本会のジュニア会員になりました。春休み中に参加できるイベントを探していたところ、第85回全国大会を見つけました。全国大会自体には非常に興味があったのですが、自分が2回生ということもあり、発表内容を理解するのに知識が不足しているのではないかという不安、どのセッションを聴講すればいいのかという迷いがありました。そんなとき、情報ツアーの存在を知りました。有識者による解説があるなら、私でも全国大会を楽しむことができるかもしれないと思い、参加を決めました。

ツアー当日の感想

実際の内容

参加者と顔合わせをした後にまず感じたことは、「すごい人たちと出会ってしまった」という感覚でした。企業の方や大学の先生、そしてそれぞれの分野の知識と見方を持つ方々と話をするのができ、大学で行っているアメリカンフットボールの分析についても意見をいただきました。セッションを聴講した後は、別室で各セッションの発表について有識者の方に解説をいただきました。また、発表の間にはSlack上でリアルタイムの意見を交換しました。聴講した研究発表のほとんどは事前知識を持っているものではなかったため、発表中に理解できたことは多くはありませんでした。しかし、図-1, 2のように有識者の方の解説やそれを踏まえた発表全体に対する疑問の共有、参加者の専門分野を踏まえた意



図-1 意見交流の様子

見の交流によって、なるほどそういうことかと発表内容についてより深く理解できました。

キーワードが飛んでくる感覚

選定されたセッションの中には自分では選ぶことのないジャンルのものもありました。すなわち自分の意識の視野の外にある分野であったと言えます。発表を聴いたり、意見交流をしたりする中でその分野を語る上で欠かすことのできないキーワードが現れます。これが、私が体験した「視野の外にある単語がいきなり目の前に飛んでくる感覚」です。キーワードを理解するために有識者の方に質問したり、ツアー後に調べて勉強したりして視野が広がりました。このプロセスは今までにほぼ体験したことがなく貴重で刺激的なものでした。これまで視野の外にあり、見えていなかったけれど、発表を聞いて、解説を聞いて、アメフトの分析に活かせるのでないかと新しく興味を持つ分野に出会えました。ツアーでの偶然の出会いでした。



図-2 有識者の解説の様子

意見交流での想定外の学び

発表後の意見交流では、発表内容についての意見だけでなく、発表者が課題を発見するまでのプロセス、研究の進め方、伝え方についての議論も行われました。私自身がまだ研究をしたことがない立場であるため、こうした観点から発表内容について意見を持つことは、単独で聴講してはできなかったことです。このような体験ができたのは、さまざまな経験を積んだツアー参加者がいたからこそだと思います。そうしたツアー参加者はそれぞれ異なる観点から発表内容についての意見を持ち、既存手法で似ているものを交流したり、自分の専門分野での応用ビジョンを共有したりすることで1つの発表での話題が雪だるま式に膨らんでいく場面もありました。1人では決して味わうことのできない刺激的な体験でした。

総括

私は、全国大会の聴講にあたり、知識的不安からツアー参加を決めました。しかし、貴重なツアー参加者との出会いや、有識者からの解説で、単に発表内容を理解するだけでなく、新しい興味を持ったり、1つの話題に対する多様な観点を知ることができたり、1人では経験できなかったことを体験することができました。私のような全国大会に初めて参加する人にこそぜひお勧めしたいツアーです。

(2023年3月20日受付)

北山涼華（ジュニア会員） b1122019@edu.kit.ac.jp

広島大学附属福山高等学校卒業、京都工芸繊維大学工学部情報工学課程2回生、部活でアメリカンフットボールの統計分析とそれに基づいた試合での戦略の考案を行う。